

福山市民病院の増改築事業について

福山市病院事業管理者
高 倉 範 尚

1. 趣旨

福山市民病院は、「がん医療」・「救急医療」・「高度専門医療」を大きな柱に、圏域の基幹病院として、高度急性期・急性期医療の病床機能を担うとともに、「地域医療支援病院」、「地域がん診療連携拠点病院（高度型）」、「救命救急センター」、「災害拠点病院」、「へき地医療支援病院」等の役割を担っており、本年4月には小児救急医療拠点病院の指定を受ける予定であります。

また、当該圏域は、高度急性期・急性期機能の病床が多い状況にありますが、今後、人口減少や少子高齢化が急速に進み、医療需要が大きく変化することが見込まれており、地域ごとに最適な医療提供体制を構築することが求められています。

こうしたことから、竣工から43年が経過した本館の建て替えなど増改築事業を実施し、現在担っている機能の強化に加え、第7次広島県保健医療計画で、この圏域の課題として掲げられている小児救急医療の整備、さらには、周産期医療体制を段階的に整備し、将来的には総合周産期母子医療センターの指定をめざす考えであります。

2. 増改築事業のスケジュール

増改築事業は次のとおり段階的に進めていきます。



3. 病床の概要

現状	
計	500床
(内訳)	
救命救急センター	24床
集中治療室	12床
その他	464床

※ 別途 感染症病床 6床



病床数（案）	
計	500床
(内訳)	
救命救急センター	24床
集中治療室	12床
総合周産期 母子医療センター	30床
その他	434床

※ 別途 感染症病床 6床

福山市民病院 病床機能報告(定量的な基準)による2020年と2025年の病床数

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中等	合計
2020年	458床	26床	0	16床	0	500床
2025年	458床	26床	0	16床	0	500床

福山・府中圏域 病床機能報告(定量的な基準)による2019年の病床数と2025年の必要病床数

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中等	合計
2019年	858床	2,059床	1,081床	1,118床	129床	5,245床
2025年	524床	1,691床	1,840床	976床	0	5,031床

【病床利用率及び平均在院日数】

年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
病床利用率	87.0%	83.6%	84.8%	72.7%
平均在院日数	10.5日	9.8日	10.1日	9.6日

2020年度の病床利用率及び平均在院日数については、2020年4月～2020年12月の実績である。

4. 今後の方向性

福山市民病院は、今後も圏域の基幹病院として、高度急性期を中心に専門的な機能を担う役割を果たしていくため、現状の病床機能・病床数を維持することで、地域医療構想における病床の機能分化及び連携による質の高い医療提供体制の整備に資することができると考えており、これまでも、小児専用病床を10床から26床へ整備してきたように、周産期医療についても、現状の一般病床数の中で、機能の充実を図っていく。